

次世代火山研究者育成プログラム 受講生便覧 (2016年度)

本プログラムは、基礎コースおよび応用コースに分けられている。それぞれ1年間で履修できるように火山研究の基礎となる授業科目は編成されているが、複数年かけての履修も可能である。下記第1項の授業科目を第2項の方法で履修し、第3項にある各コースの修了要件を満たした受講生に、コース修了が認定される。基礎コースを修了した受講生は、原則として、引き続き応用コースの受講生となる。本便覧は、2016年度から本プログラムに参加する受講生に適用される。

1. 授業科目

A. コンソーシアム参加機関・協力機関の大学で開講されている授業科目

- ・地球物理学、地質・岩石学、地球化学、防災学、自然災害科学に関連する大学院修士課程の学生対象の授業。対象とする授業科目は別紙を参照のこと。
 - ・そのほか、人材育成運営委員会（「7. 人材育成運営委員会」参照）が認める各大学で開講される大学院修士課程あるいは博士課程の学生対象の授業。
- ※単位数は、各大学の講義に付与されている単位数に従う。

B. コンソーシアム等が開講する授業科目

- ・火山学実習
 - a. 火山学に関連する地球物理学、地質・岩石学、地球化学分野の計測、調査技術を学ぶ。火山計測・調査技術の講義および国内の活火山での実習を約5日間で行う。
 - b. 国外の火山において火山学に関する実習を行う。
 - c. 学協会等が提供する巡検等
 - d. 「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」の次世代火山研究推進事業が実施する観測・調査

※単位数 a,bは3単位、c,dは原則0.5単位/日

・火山学セミナー

- a. 最新の火山学研究の分野
- b. 工学・農学等の火山計測、防災対策に関する分野
- c. 人文・社会科学等の自然災害に関する分野
- d. そのほか、火山に関連する分野

※単位数 原則0.5単位/日

開講される火山学実習、火山学セミナーは年度初めなどに公表される。

C. インターンシップ

国や地方自治体、民間企業、研究開発法人等が行う、地球科学、自然災害、計測・調査技術等に関連する内容のインターンシップに参加し、受講を証明する書類を提出する。

D. 学会発表

火山学に関する研究を、日本地球惑星科学連合、それに加盟する学会の定期学術大会(学会)、または IAVCEI 主催あるいは共催の学会等において、筆頭著者として1回発表する。

2. 履修方法

A. コンソーシアム参加機関・協力機関の大学で開講されている授業科目

- ・所属する大学の授業は、各大学の履修方法に従う。
- ・他大学の授業は、授業を開講する大学の履修方法に従う。
- ・各大学で履修する授業を、履修開始後すみやかに事務局（「6. 事務局」参照）に連絡する。
- ・単位を取得した後、事務局に成績証明書を送付する。

B. コンソーシアム等が開講する授業科目

- ・コンソーシアムから通知される開講科目について、履修希望を事務局に連絡する。なお、単位は成績をもとに担当教員より付与される。
- ・前年度12月～1月頃に履修希望調査が行われる。
- ・履修手続きは、原則、4月～9月開講の授業科目は4月、10月～3月開講の授業科目は10月に行う。なお、コンソーシアム以外から提供される科目（火山学実習 c,d、火山学セミナーd）は、随時、履修手続きを行う。

C. インターンシップ

- ・インターンシップの受講を希望する場合、インターン先を事務局に連絡する。インターン先の適否は、人材育成運営委員会の判断に従う。
- ・受講生自身で、随時インターンシップを提供する機関に申し込む。
- ・受講を証明する書類等を事務局に提出する。

D. 学会発表

- ・発表の要旨と学会のプログラムを事務局に提出する。

3. 修了要件

基礎コース及び応用コースの修了は以下の要件を満たしたものである。

a. 基礎コース

総単位数 15 以上

主要 3 分野（注参照）の内、2 分野以上で、それぞれ 2 単位以上を取得。

火山学実習 2 単位以上

火山学セミナー1 単位以上

b. 応用コース

※基礎コースで履修したものを含んで下記の要件を満たすもの

総単位数 30 以上

主要 3 分野で、それぞれ 2 単位以上を取得。

火山学セミナー2 単位以上

インターンシップ（必修）

学会発表（必修）

（注）主要 3 分野

- ・地球物理学、地質・岩石学、地球化学の分野とする
- ・大学で開講される授業科目については、各大学の担当責任者が授業内容をもとに分野を決定する。コンソーシアム等が開講する授業科目（火山学実習および火山学セミナー）は、人材育成運営委員会が分野を決定する。
- ・複数の分野の内容からなる授業については、講義内容に応じて単位数を分割する。

4. 履修上の要望事項

- ・火山学セミナーは、工学、社会科学などに関する分野も積極的に履修することが望ましい。

5. そのほか

- ・他大学の授業科目を履修する際には、科目等履修生や特別聴講生の手続きが必要となる。手続きを行う時期や方法は各大学で決められているので、それに従うこと。

6. 事務局

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学大学院理学研究科 火山研究者育成コンソーシアム事務局

022-795-6783 kazan-edu_at_grp.tohoku.ac.jp

（注）_at_は@に変更して利用のこと。

7. 人材育成運営委員会

コンソーシアム全体の運営の責任主体として、コンソーシアムに参画する機関の担当責任者等からなる組織。本プログラムの実施方法及び体制、修了認定及び修了証明書の交付に関する事項等を決定する。

備考

授業科目	目的
A.参加機関・協力機関の大学の授業	地球物理学、地質・岩石学、地球化学等の専門知識を身につけ、火山学に関する研究実践能力を身につける。
B.コンソーシアム等が開講する授業科目	国内外の火山で行われる実習により、主要3分野の観測調査能力を身につける。また、火山学セミナーにより、火山学および関連分野の基礎から最新研究についての知識を得る。
C.インターンシップ	身につけた学力や研究能力の社会での活用方法を学ぶ。
D.学会発表	研究成果を発表し、他の研究者による意見等をもとに、今後の自身の研究に生かす。

(別紙)

A.コンソーシアム参加機関・協力機関の大学で開講されている授業科目

原則として、下記の大学院の各専攻で開講されている、地球物理学、地質・岩石学、地球化学、防災学・自然災害科学に関連する大学院修士課程の学生対象の授業。

北海道大学大学院理学研究院自然史科学専攻

東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻および地学専攻

山形大学大学院理工学研究科地球環境学専攻

東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

東京工業大学理学院地球惑星科学系

東京工業大学大学院理工学研究科化学専攻

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

京都大学大学院人間・環境学研究科相関環境学専攻

九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻